

SDGs 達成は環境ビジネスの要

株式会社タケエイ 代表取締役会長

三本 守

MITSUMOTO MAMORU



1968年個人企業として建設廃棄物の収集・運搬・処理を手がけ始める。
1977年武栄建設興業(株)を設立、取締役就任。1983年代表取締役就任。1988年(株)タケエイに社名変更。2010年代表取締役会長就任。(公社)全国産業廃棄物連合会理事、(一社)千葉県産業廃棄物協会副会長、環境省・国土交通省の各種委員会委員など多数歴任。
2018年(公財)日本産業廃棄物処理振興センター理事就任(現任)。

SDGs(持続可能な開発目標)は、現代世界が抱える課題を包括的に示しており、今やそのロゴマークを見かけない日はない。

タケエイグループの事業は、17の目標のうち、特に〈⑦エネルギーをみんなに、そしてクリーンに〉〈⑭海の豊かさを守ろう〉〈⑮陸の豊かさを守ろう〉と関連している。例えば木質バイオマス発電事業では、間伐材を燃料とすることで適切な間伐を促し、豊かな森林の育成に貢献する。化石燃料に依らないクリーンなエネルギーを生み出し、地域に供給する。健全な森林によって濾過されたミネラル豊富な水が川に流れていき、やがて海の環境を豊かにする一助となる。こうした循環に寄与するため、間伐だけでなく保全・育成など林業に深く携わるべく、2020年5月に(株)タケエイ林業を設立した。もちろん私達には林業の知見がないので、地域の皆様の胸をお借りし、協同して取り組む所存である。

当社グループでは、廃棄物発電も行っている。(株)タケエイグリーンリサイクルや市原グリーン電力(株)は、建設廃棄物(建廃)の木くずや街路樹等の剪定枝、建廃由来のRPF(廃プラスチック等を原料とする固形化燃料)を使用して発電する。このRPFはタケエイ川崎リサイクルセンターでつくっている。折しも菅首相が、2050年までに温暖化

ガスの排出を実質ゼロにすると表明された。現行のエネルギー基本計画においても再生可能エネルギーの主力電源化が掲げられており、このような非化石燃料による発電の重要性が更に増していくことは自明である。

廃棄物を原料とする製品は、RPFに限らない。タケエイ東京リサイクルセンターでは、場内に飛散する塵(ダスト)から製鉄副資材「エコ・フォーム®」を製造する他、最近では廃タイルカーペットを再生原料化するための高度な切削技術を開発した。

タケエイの究極の目標は、廃棄物から製品を生む『製造業』、つまり動脈産業の側面も持ち合わせることである。不要物から製品をつくることは難しく、それ故に意義深い。SDGsには〈⑫つくる責任 つかう責任〉という項目もあるように、メーカーは再生利用を前提に製品をつくるべきであり、ユーザーは努めて再生利用する必要がある。

環境ビジネスを推進する上で、SDGsの達成を考慮しないという選択肢は、もはや無い。莫大な利益を得られたとて、世界に貢献しないなら行うべきではない。社業はSDGs達成に結び付き、当然ながら経営も成り立つこと。それが私達の新たな「あるべき姿」であり、座標である。